
猫の奏でる歌の記憶

黒神猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫の奏でる歌の記憶

【コード】

N0455Q

【作者名】

黒神猫

【あらすじ】

ども、にゃんこです。

この作品は小説というものと関わりがあるか無いかと言われれば・・・
ありません！
俺がひたすら歌を書いていっただけです！

需要は・・・無いね！

（ ・ ・ ・ ） リズムとかが伝えられないのが残念 ・ ・ ・

透明な雪の降る午後（前書き）

雪の降る日に出会った、一人の男の子と刹那に生きる雪の精の歌。

透明な雪の降る午後

―透明な雪の降る午後―

生まれたての雪の少女は辺りを舞う楽しそうに

「君に出会えた。そんな奇跡が私の胸を暖めるから」

ただ、透明な気持ちは いつまでも亡くさないで

君を冬の奇跡が包む、夢みたいな香りの中で

雪が描く刹那の記憶、ずっと見つめていたいから

夕焼け空が雪を照らして二人の時間にお別れを告げる

雪の少女は寂しそうに無邪気な顔に微笑みを浮かべた

ただ、透明な気持ちは いつまでも亡くさないで

君は透明な光を浴び 冬のステージの上を踊った

「一つだけ約束を交わした 「今度またね一緒に遊ぼう」

明日はまた雪が降るかな

夕焼け空を見上げる

君を冬の奇跡が包む、夢みたいな香りの中で

雪が描く刹那の記憶、ずっと見つめていたいから

君は透明な光を浴び 冬のステージの上を踊った

「一つだけ約束を交わした 「今度またね一緒に遊ぼう」

「今度またね一緒に遊ぼう」

透明な雪の降る午後（後書き）

ある冬の昼。

一人で雪で遊ぶ男の子と雪の精霊が出会う。

二人は寒空の下で時間を忘れて一緒に遊んだ。

そんな二人に夕日はお別れを告げるかのように二人の間に降り注ぐやがて、雪は溶け始め雪の精は寂しくも一つの約束を残して去ってしまった。

こんなストーリーで作ってみた。

ども、にゃんこです。

歌は初ですねw

今回はなにを思ったか作曲をする！ということで第一弾！

というのも、小説考えるのは時間が掛かってしまい受験中には厳しい。

けど、なにかやりたいってことで作詞です！

今回はちょうど今が冬ってことで冬を意識して考えてみた。

創作時間は1時間ぐらいかな？

いい気分転換にもなったし、小説のように先を考えながらってのと違ったから気軽に楽しめた。〇（ ）〇

そのうち東方の曲の作詞もやってみたいかなw

バイニャー () ノシ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0455q/>

猫の奏でる歌の記憶

2011年1月13日00時27分発行